



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン情勢：反政府派によるデモ行進

(10日付ワサト紙ほか)

9日、ウィファーク（認可された反政府派政治団体）は、当局の許可を得て大規模なデモ行進を行った。

このデモ行進は、3月半ばの「国家非常事態宣言」発出以降、初めての大規模デモ行進となった（注：集会は何度か開催）。参加者は数千人規模であり、一部では王政打倒の掛け声も上がったが、概ね秩序立ったデモ行進となり、周囲で渋滞が発生したものの、治安の悪化や身の危険を感じるほどではなかったという。

1. 9日（金）16時半頃より、アル＝ムクシャ村からジョノサン村までのハイウェイ（注：マナーマ市街から外国人居住区であるサール地区へと続く主要幹線道路）において、ウィファークの主催により数千人規模のデモ行進が行われた。
2. 主催者であるウィファークは声明を出し、下院議会の解散と9月24日に予定されている補選の延期を求め、バハレーンの政治危機を解決するため国民の真の要求を満たす必要があると主張した。
3. 同日、治安当局は声明を発出し、このデモ行進において違法行為を行った者、公共を害した者、扇動した者等に対し、法的措置を講じると発表した。
4. 10日、ウィファークは声明を発出し、以下の通り発表した。
 - (1) 9日のデモ行進において、不適切な態度を示した参加者がいた。
 - (2) ウィファークは、「政治改革を求める」というスローガンの下でイベントを主催しており、「ハマド国王を倒せ（Down with Hamad）」や「ハリーファ王家に死を（Death to Khalifa）」といった言葉を拒否する。
 - (3) 今回のデモ行進で被害を被った方々に対し補償を行う。